

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル 生涯現役で生涯青春のまちづくり

現状と課題

今後、さらなる高齢者数の増加が予測される中、元気な高齢者を増やしていくためには、活力の源となる「生きがいつくり」を推進していくとともに、社会参加の促進を図っていくことが必要である。

第8期における具体的な取組

＜生きがいつくり＞

- ・高齢者いきがい講座、高年大学、老人クラブ、ボランティア活動、介護支援サポーターポイント事業等の実施

＜社会参加の促進＞

- ・老人クラブ、高齢者福祉バス運行事業、鯖江シルバー人材センター事業の推進

目標（事業内容、指標等）

令和3年度目標値

- | | | | |
|---------------|------|---------------------|--------|
| ・高齢者いきがい講座実人員 | 500人 | 老人クラブ | 2,980人 |
| ・高年大学受講生数 | 450人 | 介護支援サポーターポイント事業登録者数 | 460人 |
| ・学びバス実施回数 | 25回 | シルバー人材センター会員数 | 640人 |

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	令和3年度実績		
	・高齢者いきがい講座実人員 448人	老人クラブ	2,673人
	・高年大学受講生数 269人	介護支援センターポイント事業登録者数	223人
	・学びバス実施回数 8回	シルバー人材センター会員数	514人
自己評価結果	すべての事業について、目標値を下回る結果となった。		
課題と対応策	今後、何らかの交流活動を通じて、目標値を上回ることができないか検討する必要がある。		

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	いつまでも健康で暮らせるまちづくり
------	-------------------

現状と課題

本市の人口推計では、後期高齢者が増加することが予測されており、後期高齢者においては認知症や要介護度の重度化のリスクが高くなると考えられる。高齢者が健康で自立した生活を送ることができるためには、自主的・積極的な介護予防事業の推進とともに、ひとりひとりの身体状況や生活環境に応じたサービスを提供する必要がある。

第8期における具体的な取組

- <健康づくりの推進>
- ・各種検診、生活習慣病予防、たばこ・アルコール対策
- <介護予防事業の充実>
- ・総合事業による介護予防事業の充実

目標（事業内容、指標等）

令和3年度目標値

- ・健康チェックリスト回収率 62%
- ・健康寿命ふれあいサロン利用者数 2,543人
- ・いきいき講座参加者数 236人
- ・湯ったりクラブ、湯湯クラブ参加者数 135人

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<p>令和3年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェックリスト回収率 56.9% ・健康寿命ふれあいサロン利用者数 2,277人 ・いきいき講座参加者数 203人 ・湯ったりクラブ、湯湯クラブ参加者数 135人
自己評価結果
<p>健康チェックリスト回収率、健康寿命ふれあいサロン利用者数、いきいき講座参加者数は、目標値を下回ったが、湯ったりクラブ、湯湯クラブ参加者数は目標値に到達した。</p>
課題と対応策
<p>本年度は、コロナ禍により事業中止機関があり、参加者数の目標値に達しなかった。コロナ禍での一般介護予防事業の内容や回数、介護予防、フレイル予防に関する啓発を強化し、自立した生活が送れる高齢者の維持・増加を図る必要がある。</p> <p>また「見える化」システムのデータ分析から本市の介護保険を利用している認知症患者について重度化している傾向にあると思われるため、原因分析と対策を考える必要がある。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	みんなで支え合い助け合うまちづくり
------	-------------------

現状と課題

高齢化が進行し、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加が予想される中、認知症重度化による虐待の増加や、徘徊高齢者の増加、キーパーソンの不在など地域の課題把握や課題解決のためには、公私協同の関係を密にし、市民参加を大切にしながら、地域福祉を促進していく必要がある。

第8期における具体的な取組

＜認知症高齢者対策＞

- ・認知症ケアパスのガイドブックの作成
- ・認知症に対する理解促進、人材育成
- ・認知症の早期発見、早期対応
- ・家族介護者支援の充実
- ・徘徊高齢者家族支援
- ・高齢者見守りネットワーク（ご近所福祉ネットワーク活動）の強化

目標（事業内容、指標等）

令和3年度目標値

- | | |
|-------------|--------|
| ・認知症サポーター数 | 8,747人 |
| ・もの忘れ検診受診率 | 8.0% |
| ・徘徊探知端末利用者数 | 5人 |

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - 目標値に対する実績値等で評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<p>令和3年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター数 8,723人 ・もの忘れ検診受診率 5.4% ・徘徊探知端末利用者数 4人
自己評価結果
<p>物忘れ検診の受診率、認知症サポーター数については目標値を下回った。徘徊探知端末利用者数については目標値を下回った。</p>
課題と対応策
<p>認知症サポーター養成は、一定数養成はしたものの、その後の活動展開が不十分であるため、ステップアップ講座を実施し、認知症カフェなどの取組につなげていく。もの忘れ検診受診率向上は、対象者への訪問による受診勧奨やMC Iの啓発など認知症予防についての啓発活動を強化し、市民が主体的に認知症予防の取組みにつながるようにする。</p> <p>徘徊探知機端末については、制度周知を強化するとともに、スマートフォンの普及などで代替機器となっている可能性や、徘徊高齢者の在宅率などを検証し、介護者の負担軽減につなげていく必要がある。</p>